

良心の碑

いしづみ

聖書の言葉

「だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。」(ヤコブの手紙5章16節)

新島先生が京都第二公会の礼拝説教でよんだ聖句です。(朗読：三瀬安彦)

4月 月例会(4/23)

発表者 江澤 香

テーマ 『高梁における新島襄』

朱子学から陽明学へ

19世紀儒学の潮流が、君臣・父子の別をわきまえ上下の秩序を重んじる朱子学から、良知(是非・善悪・正邪の判断力)を養い知識と実践の一体化を重んじる陽明学へと変化した。朱子学を正学としてきた幕府学問所(昌平黌)の儒官・佐藤一斎でさえも陽明学を講じるようになった。

山田方谷と川田襄江(剛)

山田方谷は初め朱子学を学び、のち佐藤一斎に陽明学を学んだ。天保7年(1836)藩校有終館学頭に就任し、その後、藩執政として藩政改革にあたった。

山田方谷は三島中洲を通じて昌平黌友の川田襄江をリクルートし、藩儒にした。

備中松山藩の改革

山田方谷は藩主の信認を後ろ盾に財政改革を断行した。大坂蔵屋敷の廃止、賄賂政治の是正、藩札回収と新札発行、備中緞など特産品の販売に力を注ぎ、赤字財政を黒字化した。また、そのお金で洋式帆船・快風丸を購入した。



新島襄と川田襄江

新島は、川田襄江から陽明学を学んだ。二人は学問を通じて親しい関係になった。新島が快風丸が三日以内に江戸を出航して箱館に行く聞いて、「この機会を逃してはならない。そこから外国への脱出をこころみるのだ」とひらめいた。新島は川田のもとに直行し、「藩主の好意で箱館まで無償で船に乗せてもらえるようとりなしてほしい」とお願いした。かれは、すぐにその件を藩主にもちかけてくれたので、新島は目論見通り箱館に行くことができた。

高梁での宣教演説

福西志計子は7歳で父(松山藩士)と死別し、母に育てられた。母は、志計子を山田方谷の私塾「牛麓舎」に入塾させた。

新島は明治13年(1880)志計子が勤務する高梁小学校付属裁縫所でキリスト教の演説会を行った。その中で新島は女子教育の重要性を訴えた。新島の説教に感激した志計子は裁縫所教員を辞職して、私設の裁縫所を設立した。裁縫所は岡山県初の女学校に発展した(順正女学校)。

総会報告

○三瀬会長 再任

満場一致で三瀬さんを再び会長に推挙し、三瀬さんに会長をお引き受けいただきました。任期は2年です。



○会計報告(2022.4-2024.3)

コロナの関係で会計期間が変則的に2年間です。

収入 228,000円

支出 256,056円

収支 △28,056円

○非会員は参加費500円

非会員の方から講演会などの折、原則として500円集めさせていただくことになりました。

(文責：支倉清 写真：木原康博)

今後の予定

5月例会(別紙チラシ参照)

日時：5月22日(水)午後2時より
内容：研究発表

加藤聖子『湯浅八郎』

なお当日12時20分より役員会開催。

6月例会

日時：6月26日(水)午後2時より
内容：研究発表

福岡 幸『金森通倫と新島襄』

なお6月14日(金)群馬新島研究会主催で津田塾大学見学会を予定(詳細後日)

窓 新島先生帰国記念樹開花

ことし11月26日は、新島先生が米国留学から横浜港に帰国上陸されて150年にあたる特筆すべき日です。

ところで、横浜港内の赤レンガパークに新島先生帰国記念樹としてオオシマザクラがあることをご存じですか。

この樹は、10年前、帰国140年を記念して当時の大谷実総長が鋳入れして植樹したものです。現在樹齢20年

ほどで、高さ約7メートル。毎年3月下旬から4月中旬にかけて開花します。純白で大振りな花は、若葉と共に開き、周りに芳香を放って市民はもとより観光客にも親しまれています。

同志社校友会神奈川支部では、15年前、横浜港開港150年記念の大博覧会に合わせて『新島襄と横浜開港展』を赤レンガ倉庫内で開催。同時に横浜市長に、函館の「脱国碑」に対応する「帰国碑」設置を申請しまし

たが却下され、また、カタルパ植樹の提案にも答えは「No」でした。最終的には、オオシマザクラの植樹が認められ、「新島襄横浜港帰国140周年記念植樹実行委員会」の説明版をたてることで決着しました。

昨年の帰国記念日に、神奈川同志社ウォーキングクラブが245回の歩く会を実施。記念樹の前でカレッジソングを斉唱。全員で周辺の清掃をした後、象の鼻パークにある「明治7年教

育家新島襄アメリカから帰国」を日本語と英語で表示したボード・パネルや「港をつくった偉人たち」の一人、市原盛宏(同志社英学校一期生・第4代横浜市長・日銀横浜支店長・朝鮮銀行総裁等歴任)のスクリーン・パネル、新島先生が乗ったはしげが着岸した象の鼻埠頭、上陸階段など見学し、校祖新島先生の偉業を回顧し、有意義な一日を過ごしました。

(山本寿幸)